

平成27年度 登別市下水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

本年度は、年間有収水量が前年度に比べ僅かに増加したものの、資本費の高止まりなどもあり、引き続き厳しい経営環境に置かれました。

こうした中、平成27年度事業の実施にあたっては、厳しい経営環境に置かれていることを踏まえ、維持管理経費等の縮減に努めることはもちろん、ライフサイクルコストを低減する観点から、施設の効率的な維持管理に資する施設整備事業を重点化するなど、公営企業としての経済性を最大限発揮し、効率的な経営に努めました。

また、経営の効率性を確保することに留意しながらも、汚水の安定的処理やこれによる公共水域の保全、浸水防除など、下水道事業の公共的使命を果たすため、汚水管渠の改築更新や雨水管渠の新設などを着実に実施しました。

ア 業務状況

年間有収水量は、公共下水道事業で前年度に比べ37,384 m³増加の3,213,372 m³、個別排水処理施設事業で前年度に比べ443 m³増加の13,919 m³となりました。

また、接続戸数（浄化槽設置基数）は、公共下水道事業で前年度に比べ271戸増加の20,260戸、個別排水処理施設事業で前年度に比べ4基増加の66基となりました。

イ 建設改良事業

管渠建設費においては、中央町地区及び若山町地区の雨水浸水対策として、鉄南1号幹線雨水管渠新設工事、若山町地区雨水管渠新設工事を実施したほか、汚水管渠については、既設管のたるみが著しい常盤町地区の汚水管渠改築更新工事などを行いました。

また、処理場建設費においては、主要設備機器の老朽化が進んでいることから、下水道機能の停止を未然に防止するとともに、ライフサイクルコストの最小化を図るため、登別市下水道長寿命化計画に基づき、水処理設備の更新工事などを実施しました。

ウ 施設の現況

本年度末における施設の現況は、次のとおりです。

- ・ 終末処理場 若山浄化センター
(施設構成) ポンプ棟、オキシデーションディッチ、最終沈澱池
塩素混和池、汚泥処理棟、送風機棟
- ・ ポンプ場 3カ所 (若草ポンプ場、幌別ポンプ場、登別ポンプ場)
- ・ 管渠 汚水管 延長 252,662.99m
雨水管 延長 3,315.01m

エ 財政状況

(収益的収支)

収入は、営業収益6億5,966万3,981円(うち使用料収入5億7,614万1,617円)、営業外収益11億1,530万1,080円の合計17億7,496万5,061円となりました。

これに対し支出は、営業費用13億9,170万9,366円、営業外費用3億7,578万8,363円、特別損失26万3,487円の合計17億6,776万1,216円となり、収支差引による当期純利益は720万3,845円となりました。

(資本的収支)

収入は、企業債収入7億6,090万円、負担金及び分担金収入2,319万6,200円、補助金収入3億914万5,277円の合計10億9,324万1,477円となりました。

これに対し支出は、建設改良費4億7,101万7,667円、企業債償還金11億6,504万1,547円の合計16億3,605万9,214円となり、収支差引による不足額は、5億4,281万7,737円となりました。

この不足額につきましては、損益勘定留保資金などで補てんしました。